



クララ&ロベルト・シューマン 愛、輝きと優しさ 特別レクチャーコンサート

2月23日(土) 午後2時からアクトシティ音楽工房ホールで特別レクチャーコンサートを開催しました。このコンサートは静岡文化芸術大学との共同企画によるもので、今回で3回目。楽器博物館所蔵 19世紀オリジナルピアノを使って、静岡文化芸術大学の研究陣による研究成果を発表するという趣向の演奏会です。

第1回は2006年2月の「ショパンのアンサンブルを、19世紀のサロンの響きで」、第2回は2007年1月の「ベートーヴェンのアンサンブル」、そして今回が第3回目でシューマン夫妻の作品を取り上げました。このシリーズの最終回でもあります。シリーズを貫くテーマはピアノ協奏曲の室内楽版。ピアノ協奏曲がフルオーケストラではなく、弦楽四重奏や五重奏の室内楽でも盛んに演奏されていた19世紀の豊かな音楽世界を紹介するものです。

当日使用した楽器は、1820年頃ウィーンのコンラッド・グラーフが製作したと伝わるフォルテピアノ。6オクターブ半の80鍵で、白鍵には貝、黒鍵にはベッコウが使われている大変美しい楽器です。

グラーフ(1782~1851)はオーストリアの「帝国宮廷フォルテピアノ製作者」と名乗ることを許された名工。1835年にウィーン産業博覧会で金メダルを受賞し、かの有名な大作曲家ベートーヴェンのためにもピアノを作りました。ショパンやリストも彼のピ

ノを使ったといいます。彼の手によるピアノは約3000台ですが、現在残っているのは60台余りです。

当日のプログラムは、ピアノ・ソロでロベルト・シューマンの「謝肉祭」、ピアノとヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ、コントラバスでクララ・シューマンの「ピアノ協奏曲 イ短調 作品7 〈室内楽版〉」、ピアノ、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロでロベルト・シューマンの「ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44」の3曲。演奏はこのシリーズではおなじみのピアノ小倉貴久子、ヴァイオリン桐山建志、藤村政芳、ヴィオラ長岡聡季、チェロ花崎薫に加えて笠原勝二がコントラバスを担当。謝肉祭ではピアノの繊細な響きが細かなパッセージまで輪郭を鮮やかに描き出し、モダン・ピアノでは味わえない透明な世界を表現しました。続くピアノ協奏曲は、1834年クララ15歳の作曲。オーケストレーションはロベルトが担当。初演は1835年でソリストはクララ。のちのロベルトのピアノ協奏曲につながる作品で、少女クララの若い感性が伝わる作品。最後のピアノ五重奏曲はさすがに大作。グラーフのピアノはその情感をたっぷりと感じあげました。どちらもピアノと弦楽器がとてもよく溶け合って響き、ピアノが弦楽器であることを実感させる演奏でした。

なおこの演奏会は3月2日(日)に東京の第一生命ホールでも開かれ、多くの聴衆を魅了しました。

レクチャーコンサート トルコの民俗音楽と舞踊を紹介



トルコ民族音楽演奏の最高峰国立イスタンブール工科大学トルコ民族音楽院の皆さん14名からなるトゥルコアーズ民俗舞踊アンサンブルをお招きし、トルコの民俗音楽と舞踊を紹介しました。歌、踊りを、14名という人数で見事に掛け持ちしながら披露してくださいました。

コンサートは、宗教儀式的音楽とダンサー一人による旋回舞踊で厳かに始まり、その後は、トルコ各地の

民俗音楽と華やかで繊細な踊り、それに美しい衣裳の数々をお楽しみいただきました。おもしろい民俗舞踊として、日本ではお酒の席で見かける「腹踊り」がありました。男女の顔を腹に描きコミカルな踊りで、男女それぞれの気持ちをクラリネット1本で表現します。身体をよじりながらさまざまな表情を見せる男女の姿に、会場内は笑いが絶えませんでした。また、靴が波打つようなしなやかな足さばきを披露する踊りもあり、華麗な演技に歓声があがりました。

楽器紹介ではデモンストレーションも行われ、大太鼓の元となった「ダウル」、10本の指を駆使して演奏する「ダルブカ」などの太鼓類は、細かい変拍子のリズムを刻む姿に大きな拍手が贈られました。日本のチャルメラの元となったズルナは、循環呼吸という特殊奏法を使って演奏されました。循環呼吸とは、息継ぎをしないで永遠と吹き続ける超人技です。口の中に空気を溜めて、ほっぺたの力で息を押し出しているうちに、鼻で息を吸います。巧みな指使いで奏でるにぎやかな音楽には、驚きの声があがりました。

トルコは日本と似たような文化を持つ国であると言われています。これは、日本人にもなつかしさを感じさせる歌声や楽器からも感じ取ることができました。ナビゲーターの細川さんによると、トルコは日本人が熱く迎え入れられる国だそうです。出演者のみなさんも、珍しい音楽と舞踊に興味津々なお客様にサービス精神が旺盛でした。出演者とお客さま

第74回レクチャーコンサート
 「トルコの民俗音楽と踊り～シルクロードの音世界～」
 日 時：3月24日(月) 18:30～20:30
 会 場：アクトシティ音楽工房ホール
 出 演：トゥルコアーズ民俗舞踊アンサンブル
 入場者：252名
 お 話：細川直子、嶋和彦(当館館長)
 制作協力：伊丹アイフォニックホール

が一体となってトルコの音楽に浸る姿がうかがえ、充実したひと時となりました。

ワークショップ インドネシア・バリ島ガムランを体験



インドネシア・バリ島の伝統楽器、ガムランの演奏体験ワークショップを行いました。ガムランは、青銅製の打楽器を中心に、笛や太鼓などからなるオーケストラです。本講座では、まずは鉄琴のように鍵盤のある楽器(グンデル属、サロン属)を用い、パチの持ち方、音の

出し方と止め方を練習しました。慣れてきたところで、バリの子供も達が始めに習う曲「ギラッ(Gilak)」に挑戦。この曲は、各々の担当するリズムは単純ですが、それが折り重なると、複雑で華やかな響きが生まれます。ガムランは本来、楽譜を使わず、見て聞いてまねをしながら音を探ります。始めのうちは戸惑っていた参加者も、



慣れてくると周りの響きに耳を傾ける余裕がでてきたようで、美しく響くガムランの音色に一同うっとり、笑顔がこぼれました。

また映像で、バリ・ガムランの演奏と舞踊を鑑賞しました。息をのむスピード感溢れる演奏に、艶やかな舞踊。ガムランの神秘的な魅力を堪能することができました。

日 時：1月12日(土)
 Aコース 17:15～19:00
 Bコース 19:30～20:15
 会 場：楽器博物館展示室
 講 師：皆川厚一(神田外語大学講師)
 参加者：計26名

祈りの世界・日本の伝統芸能の取材を行いました

遠山郷霜月祭 (長野県飯田市上町)

12月11日から12日まで、正八幡宮で行われた霜月祭を取材しました。霜月祭は、旧暦の11月(霜月)に行われる神事で、八百万の神を招きお湯を立てることから湯立神楽とも言われます。そのお湯によって一年のケガレを祓い、人々は無病息災を祈り新年を迎えます。祭りは、太鼓、鈴、笛などの楽器による囃子と「ヤンヤーハーハー」などの掛け声にあわせ幻想的な舞が演じられました。



鈴を持って舞う

春日若宮おん祭 (奈良県奈良市春日野町)

春日大社で行われる若宮おん祭は、870年以上続いている神事です。12月17日の本祭は、午前零時に暗闇の中で神を手にした神職によって、若宮様を若宮本殿からお旅所までお迎えする神秘的な儀式「遷幸の儀」によって始まり、「暁祭」「本殿祭」「お渡り式」「お旅所祭」を経て「還幸の儀」で終了します。若宮おん祭で奉納されるさまざまな伝統芸能は、国の重要無形民俗文化財に登録されています。伝統芸能の中には、さらさら、和琴など、なかなか目にする機会の少ない楽器も登場しました。



和琴の演奏

西浦田楽 (浜松市天竜区水窪町)

西浦田楽は、毎年旧暦の1月18日に五穀豊穡、無病息災を願って西浦地区の観音堂で行われます。祭りの起源は中世とも言われ、代々世襲制で伝統を受け継いでいます。奉納される演目は、稲作の課程を現したもの、山村生活にかかわる内容のもの、観音行列など多彩で太鼓、笛、鈴、鱧口、びんざさら、すりざさらなどの楽器による囃子と舞によって執り行われます。凍えるような寒さの中、夜更けから夜明けまで48の演目が行われ、神秘的な調べが山里に響き渡りました。



さらさらの演奏「鳥追の舞」

博物館の仕事1「燻蒸」(くんじょう) (虫害から文化財を守る)



博物館には、「貴重な文化財を後世に残していく」という使命があります。そのため、虫やカビによって資料が痛むのを防ぐために毎年一回燻蒸を行っています。燻蒸は、密閉された空間に資料を入れ、ガス状の薬剤を投入することにより殺虫・殺菌します。今年は、新しく収蔵した資料を中心に約100点を燻蒸しました。

入館者数歴代2位を達成

平成19年度は、全国各地から97,128名のお客様にご来館いただきました。この記録は、「しずおか国際園芸博覧会」が開催された平成16年度の93,654名を超して歴



代2位の記録です。全国各地、さらには世界から多くのお客様をお迎えでき大変うれしく思います。今後も、更なる充実を目指し更に多くの方にご覧いただけるようにしていきたいと思ひます。

当館所蔵のフォルテピアノを使用したCD2種 新発売

楽器博物館所蔵のフォルテピアノ（1810年ウィーン、ワルター&サン製作）を使用した新しいCDを2種発売しました。

シリーズ14の『ピアノ協奏曲第4番 室内楽稿』は、平成19年1月の「特別レクチャーコンサート」の様態をライブ収録したものです。シリーズ15はその姉妹版になっています。2種ともにレクチャーコンサートなどでおなじみのフォルテピアノ奏者小倉貴久子さんが演奏しており、大変素晴らしいCDとなっています。

●コレクションシリーズ14

「ベートーヴェン ピアノ協奏曲第4番 室内楽稿～ワルターピアノによる」
 作曲：ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
 曲目：交響曲 第2番 二長調 作品36 ピアノ三重奏版
 ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58 原典資料に基づく室内楽稿
 演奏：小倉貴久子（フォルテピアノ）
 桐山建志（ヴァイオリン） 高木聡（ヴァイオリン）
 藤村政芳（ヴィオラ） 長岡聡季（ヴィオラ）
 花崎薫（チェロ）

●コレクションシリーズ15

「月光／春 ～ワルター・ピアノと弦による ベートーヴェンの輝き～」
 作曲：ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
 曲目：モーツァルトの「魔笛」より《恋人か女房か》による
 ピアノとチェロのための12の変奏曲 ヘ長調 作品66
 ピアノ・ソナタ ハ短調 作品13 「悲愴」
 ピアノ・ソナタ 嬰ハ短調 作品27の2 《月光》
 ヴァイオリン・ソナタ ヘ長調 作品24 《春》
 演奏：小倉貴久子（フォルテピアノ）
 桐山建志（ヴァイオリン） 花崎薫（チェロ）

◆これからの催し物

- ミュージアムサロン 職員やゲストによる演奏
 - 5/3（土） 14:00～、15:30～「カリブの“スチールパン”」
出演：村治進 田島隆
 - 5/4（日） 14:00～、15:30～「スウェーデンの“ニッケルハルバ”」
出演：本田倫子
 - 5/5（月） 14:00～、15:30～「ドイツの“チター”」
出演：常石さやか
 - 5/6（火） 14:00～、15:30～「フィンランドの“カンテレ”」
出演：はざた雅子
- 展示室ガイドツアー 展示品の解説 毎週日曜日 11:00、14:00
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日10:00～16:00
1時間毎 チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- レクチャーコンサート
「懐かしく麗しく アイリッシュ・ハーブ」
6/9（月） 18:30 アクトシティ音楽工房ホール
演奏：グローニャ・ハンブリー、守安功&雅子
- 世界の楽器体験ワークショップ
4/16（水）「バリ・ガムラン」
18:30～ 講師：小林江美（ガムラン演奏家）
6/21（土）「ジャワ・ガムラン（初級）」
18:00～ 講師：中川真（大阪市立大学大学院教授）
6/22（日）「ジャワ・ガムラン（初級）」
18:00～ 講師：中川真（大阪市立大学大学院教授）
- 講座「楽器の中の聖と俗」
6/21（土）第42回「水牛と暮らすトラジャ族の生と死」（インドネシア・スラウェシ島）
14:00 アクトシティ研修交流センター
講師：西岡信雄（大阪音楽大学名誉教授）
- 浜松市アクトシティ音楽院との協同企画
シリーズ「音楽探訪」ロマン主義ピアノ音楽の変遷
5/28（水）第1回「ソナタ以外のピアノ曲の魅力」
6/4（水）第2回「モーツァルトとベートーヴェンの変奏曲」
6/11（水）第3回「ロマン派性格小品の開拓者シューベルトの魅力」



◎使用フォルテピアノ
 ワルター&サン
 1808～10年
 ウィーン
 浜松市楽器博物館所蔵

◎ミュージアムショップ
 「アンダンテ」にて
 好評発売中！
 電話053-451-0300



博物館ショップ価格：各2,200円（税込）
 一般CDショップ価格：各3,045円（税込）

- 6/25（水） 第4回「シューマン組曲の多彩な仕掛け」
- 7/9（水） 第5回「ショパンとリスト：ヴィルトゥオーソの時代」
19:00 アクトシティ音楽工房ホール

◆博物館日誌

- 1/12（土） ワークショップ「バリ・ガムラン」17:15、19:30
講師：皆川厚一 参加者26名
- 1/13（日） ミュージアムサロン「フォルテピアノ」14:00、15:30
演奏：長谷川由輝子 参加者130名
- 1/20（日） ミュージアムサロン「パンスリー」14:00
演奏：中川博志ほか 参加者42名
- 2/3（日） ワークショップ「長唄三味線」13:00、15:00
講師：柘屋邦寿 参加者26名
- 2/10（日） ミュージアムサロン「リードオルガン」14:00
出演：篠原舞（当館職員） 参加者43名
- 2/17（日） ミュージアムサロン「デュオピアノ」14:00
出演：森本佐知子、藤田明日香（当館職員） 参加者48名
特別レクチャーコンサート「クララ&ロベルト・シューマン 愛、輝きと優しさ」
14:00 音楽工房ホール
演奏：小倉貴久子、桐山建志ほか 入場者198名
- 2/26（火）～2/29（金）
移動楽器博物館（浜松市立浜名小学校）
- 3/8（土） 楽器博物館友の会事業「第6回学芸員との夕べ」
演奏：上尾直毅（クラヴィコード） 参加者77名
- 3/16（日） ミュージアムサロン「中国の古琴」14:00
演奏：山寺美紀子 参加者72名
- 3/24（月） レクチャーコンサート「シルクロードの音世界・トルコの民俗音楽と踊り」18:30 音楽工房ホール
演奏：トゥルコアーズ民俗舞踊アンサンブル
入場者252名
- 3/30（土） ミュージアムサロン「リコーダー」14:00、15:30
出演：嶋和彦（館長） 参加者197名

利 用 案 内

開館時間：午前9:30～午後5:00
 休館日：毎月第2・4水曜日（祝日の時は翌日）、年末年始、
 その他施設点検等のための臨時休館日
 常設展観覧料：個人 団体（20人以上） 団体（80人以上）
 大人（大学生以上） 400円 320円 240円
 中人（高校生） 200円 160円 120円
 ※中学生以下、高齢者（70歳以上）、障害者の常設展入館料は無料です。

浜松市楽器博物館だより

平成20年4月10日発行 No.51
 編集 浜松市楽器博物館
 〒430-7790 静岡県浜松市中区中央3-9-1
 TEL. 053-451-1128
 FAX. 053-451-1129
 URL: <http://www.gakkihaku.jp>
 MAIL: wakuwaku@gakkihaku.jp
 印刷 株式会社シバプリント